

ぶつかりあっても離れても、それでも家族はやっぱり家族



母ちゃんって、不死身なんだと思ってた――

富山では「生きがいい」ってこと

石田卓也

大竹しのぶ

# キトキト!

平山あや 尾上寛之 伊藤歩 光石研 井川比佐志



監督:吉田康弘 製作:李鳳守 河合洋 プロデューサー:福映 脚本:吉田康弘 補映 ラインプロデューサー:杉原奈実 音楽:増本直樹 撮影:木村信也 照明:木村匡博 録音:松本昇和 美術:山下修侍 編集:三條知生  
エンディングテーマ:「フルサド」ONE☆DRAFT (ソニー・ミュージック アソシエイテッドレコーズ) 原作:「キトキト!」吉田康弘著(メディアファクトリー刊)

支店:森文化庁 製作:シネカノン ハビネット 企画・制作・配給:シネカノン -A Line- ©2007 キトキト! 家族魂。

www.kitokito-movie.com

[2006年/カラー/109分/1.85/DTS]

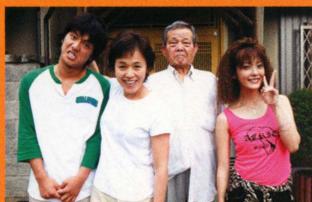
# 何があっても、母ちゃんはボクらの味方だった。



## 日本代表スーパー母ちゃんによる、いびつだけど最高の家族のつくりかた

富山県高岡市。「スーパー智子ちゃん」こと斎藤智子は、あらゆる仕事をこなしながら子供たちを女手ひとつで育てあげてきた評判の肝つ玉母ちゃんだ。しかし娘の美咲は3年前に駆け落ちしたまま音信不通。やんちゃな息子・優介もまた智子について行けず、母親と「なーんつまらん、この町」から逃れるように上京を決意する…。

ふるさとを飛び出していく息子を「人生で大事なものは、自分が生きて証を残すこと」という言葉で送り出す母親。ハチャメチャな元気で笑顔の裏側にあるまっすぐな想い。その切なさがやがて家族の絆をつなぎ合わせ、私たちの心にもつよく響く――。



## 『パッチギ!』『フラガール』の製作チームがすべての母親と子供たちへ贈る感動作

主人公の優介と姉・美咲にはフレッシュな魅力で活躍中の石田卓也と平山あや。そして一筋縄ではいかない母・智子を演じるのは2年ぶりの映画出演となる大竹しのぶ。家族のために全力で突っ走るとこまでも深い母の愛を表現。今まで見たこともない破天荒で強烈なキャラクターを激しいアクションで演じながら、どこか懐かしさも感じさせる表現力で、観るものを大いに魅了する。監督・脚本は井筒和幸監督の下で助監督を務めてきた

弱冠27歳の新鋭、吉田康弘。自身の経験を反映させた母と子の物語をユーモアを交えながら見事に描き切り、ベテランの大竹も「熱意があるだけでなく、才能が満ちあふれている」とその手腕を絶賛。さわやかな感動をお届けした『パッチギ!』『フラガール』の製作チームも三たび集結、型破りな母をはじめとするキトキト(=生きがいい)人々の姿にあらためて家族のすばらしさを思い出し、幸せな気持ちになれる作品が誕生した。

大切な物を失う事で大人になってく。  
私が言いたい事全部伝えてくれたで。  
やっぱり息子と観て良かった。  
ほんま良かった。 綾戸智絵 (ジャズシンガー)

母親は母親であるだけで素晴らしい。  
たいてい後になってからそう気付く。  
「ありがとう」と言えなくなる前に  
「ありがとう」と言おう。 井筒和幸 (映画監督)

# キトキト!

石田卓也 平山あや 尾上寛之 伊藤慈 光石研 井川比佐志 大竹しのぶ  
吉田康弘 第一回監督作品

製作:李鳳宇 河合洋 プロデューサー:藤 映 脚本:吉田康弘 編映:ライオンプロデューサー 杉原泰史 音楽:増木直樹 撮影:木村匡也 照明:木村匡博 録音:松本昇和 美術:山下修徳 編集:三條知生  
エンディングテーマ:「フルタイムDRAFT」(ユニコーン・シグマ・フジエ(アップレックス)) 原作:「キトキト」吉田康弘著(メディアワークス刊)

支店:金文化庁 製作:シネカノン ハビネット 企画・制作・配給:シネカノン A Line ©2007 キトキト家族

www.kitokito-movie.com

## 3月上旬 無敵のロードショー!

特別鑑賞券¥1,500 (税込) 絶賛発売中!  
劇場窓口にてお買い求めの方にランドリーピンをプレゼント!(数量限定)

JR有楽町駅前 ビックカメラ7F  
シネカノン有楽町  
03-3283-9660  
[全席指定(初回を除く)・入替制]  
www.cqn.co.jp/cinemas

渋谷明治通り 宮下公園交差点前 コチビル  
渋谷 アミューズCQN  
03-5468-5551  
[全席指定(初回を除く)・入替制]  
www.cineamuse.co.jp